

# Newsletter No. 12

## Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

### 第28回学術大会長挨拶



第28回日本顎顔面補綴  
学会学術大会  
大会長 野口 誠  
富山大学大学院  
医学薬学研究部  
歯科口腔外科学講座  
教授

歴史ある日本顎顔面補綴学会の第28回総会・学術大会を当講座でお世話させていただくことになりました。本学会が富山で開かれるのは、第4回総会（1987）以来の24年ぶりということになり、誠に感慨深いものがあります。

会期は2011年6月3日（金）・4日（土）で富山国際会議場メインホールにて開催します。特別講演は富山大学生命科学先端研究センター長、医学薬学研究部認知・情動脳科学専攻システム情動科学講座教授の西条寿夫先生にお願いし、「顎運動と脳機能」と題してご講演戴きます。西条先生は情動や記憶の神経機構について非侵襲的脳機能マッピングを用いた脳科学・神経生理学研究を数多くされており、今回は顎運動と脳機能に関する興味深いお話をうかがえると期待しております。

第16回教育研修会としては、「顎顔面補綴患者の口腔ケア」のテーマで静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科の大田洋二郎先生をはじめ、静岡がんセンター、日本大学歯学部付属病院の歯科衛生士による講演が予定されており、新しい基軸での有意義な研修会になると思われます。

また今回は「上顎欠損に対する新しいストラテジー—補綴と外科のコラボレーション—」と題したシンポジウムを企画しております。近年、上顎欠損に対する骨性再建が広く行われるようになりました。一般口演ではディスカッションの時間が足りないとの声もあり、今回は時間をとって議論を深めたいと思います。

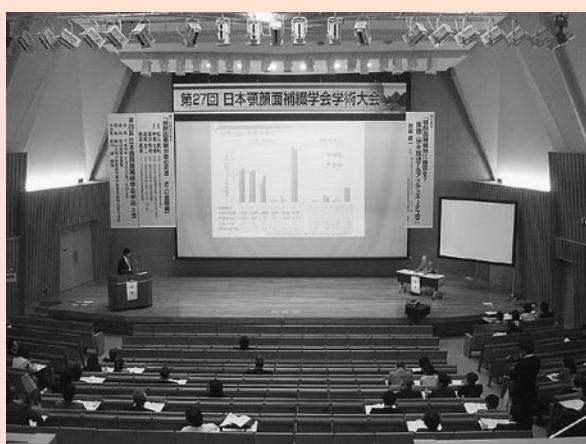
6月の富山は梅雨時で万全の気候とは言えませんが、富山湾の宝石と賞せられるシロエビ、夏の王者クロマグロ、岩ガキや甘エビなど、富山ならではの海の幸が堪能できるかと思います。学会初日の夜には、学会場に隣接するANAクラウンプラザホテル最上階で会員懇親会を予定しております。脳にも口にも美味しい学術大会・懇親会になればと思いますので、会員の皆様におかれましては、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

## 第27回学術大会報告

平成22年6月18日（金）、19日（土）、岡山大学創立50周年記念館において皆木省吾総会長のもと、第27回日本顎顔面補綴学会総会および学術大会が開催されました。学術大会前日の17日午前に各委員会、午後に理事会が行われ、18日には鈴森先生の特別講演と一般講演20題の発表が行われました。さらに19日午前中には学術委員会主催の第15回教育研修会と顎顔面補綴治療のガイドライン作成に携わる先生方からガイドライン案の発表、午後からは一般講演11題の発表が行われ、参加者200名と盛会のうちに幕を閉じました。



委員会、役員会が行われた後楽園



会場：岡山大学創立50周年記念会館

## 特別講演

### 「顎顔面補綴物に機能を？」

#### —医歯工学を加速するアクチュエータ工学—

鈴森康一先生

岡山大学アクチュエータ研究センター センター長

岡山大学大学院自然科学研究科 教授



今回の特別講演は「顎顔面補綴物に機能を？—医歯工学を加速するアクチュエータ工学—」ということで、2008年11月に設立された岡山大学アクチュエータ研究センター センター長であり、岡山大学大学院自然科学研究科教授である鈴森康一先生にご講演頂いた。

アクチュエーターとは耳慣れない言葉であるが、「動き」を作り出すデバイスの総称である。その「動き」を作り出す物としては、モーター、油空圧シリンダ、圧電素子、人工筋肉などがあり、ロボット、メカトロニクス、IT機器、バイオ操作、医用・福祉機器、航空機、自動車、科学分析機器などの様々な分野で応用されており、特に医科への応用には力を入れてあり自走型大腸内視鏡やリハビリ介護機器など実用されつつある機器もたくさんある。

われわれ顎顔面補綴に携わる研究者にとって夢のような演題であるが、アクチュエーターという言葉を理解していなかった筆者は、イメージの沸かないまま講演を拝聴した。先生のアクチュエーターという言葉の概念から実際の応用に至るまでの解りやすい解説によって、様々な分野にて応用がなされていることにまず驚いた。加えて顎顔面補綴や嚥下・発音などの分野でもアクチュエーターを用いることで将来可能になる技術が沢山あるようと思え、可能性を沢山秘めた研究分野であることが理解できた。

今後は、鈴森先生を中心に岡山大学の研究者の方々や企業の力を借りて大きく発展していく分野であると思われるが、大会長の皆木先生が鈴森先生に特別講演を依頼された意図を考えつつ、この学会としても患者 QOL 向上や会の発展のために何か知恵を出し合う事が必要ではないかと思いをめぐらすことができたすばらしい講演でありました。

(広報委員 古賀千尋)

## 第 15 回教育研修会を聴講して

日本顎顔面補綴学会第 15 回教育研修会は平成 22 年 6 月 19 日に開催された。

今回の研修会のテーマは「顎顔面補綴治療の変遷—舌・口底腫瘍—」と題し、座長に九州大学病院口腔機能修復科義歯補綴科の松山美和先生、講師には大阪大学大学院歯学研究科口腔外科学第 2 教室の中澤光博先生、東邦大学医学部口腔外科学教室の関谷秀樹先生、昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科の高橋浩二先生、川崎医療福祉大学感覚矯正学科の熊倉勇美先生を迎えて行われた。

### I. 舌・口底癌の治療 —外科的治療を中心に—

中澤光博先生

現在の口腔癌治療は、治療後の口腔機能をできる限り維持するという方向に向かっており、大きな変遷を迎えている。中澤先生はその中でも舌・口底癌に対する手術治療および補助治療を紹介し、術後の問題点について述べられた。

口腔癌の治療法としては、外科的手術、放射線治療、化学療法が挙げられる。近年までは、放射線治療が主体となって用いられてきた。しかし、現在は薬剤の発達や投与方法の開発とともに、化学療法が主体となって用いられることで、かなり切除範囲を縮小させることが可能になってきていることも自らの豊富な症例で示された。

術後の機能に影響する因子としては、原発部位・切除範囲・神経の切除・再建方法が挙げられるが、最も重要なことは、残存組織の機能を妨げないことがある。また、術後の問題点としては、食渣の貯留や皮弁における体毛の発達が挙げられる。最後にこれからの展望として、手術・再建方法の進歩よりも、むしろ切除範囲を縮小する手術の開発や手術回避の可能性が期待されていることについて言及された。これから顎補綴にとりくむ初学者にとって口腔癌治療の最新像を概観できるまたとない機会であった。

(会員 高阪貴之)

### II. 嘸下・構音機能回復における舌接触 補助床 (PAP) の適応と限界

関谷秀樹先生

本年度初めて保険収載となった、嚨下回復のための舌接触補助装置 (Palatal Augmentation Prosthesis 以下 PAP) について、関谷先生は、これを契機にしっかりと Study Design で、そのエビデンスを示す必要が出てきたということを冒頭で強調された。

そこで過去 10 年間に、術後機能障害の患者を自身の手で評価し、PAP を装着または機能訓練のみで回復した症例を通して、以下に挙げる項目について検討された。

- ① 機能評価と PAP 装着プロトコールの標準化について
  - ② PAP 装着群・非装着群の術後状態比較
  - ③ 術後嚨下障害分類と PAP 形態の関係
  - ④ 嘐下造影分析による PAP の作用機序の検討
  - ⑤ 障害分類別の PAP 製作法について
  - ⑥ 舌接触と構音回復
  - ⑦ PAP 装着後非回復症例の検討
- まとめとして、
- ・ PAP の適応と予後を解析することで手術・再建が評価できる。
  - ・ PAP は万能ではないが、口腔腫瘍術後に限つては喉頭挙上補助と食道入口部開大不全にも

効果がありそうである。  
・構音と嚥下回復の厳密な両立は課題が残るとして自験例から示唆された。  
そして再度、顎顔面補綴学会主導でエビデンス強化のための study 構築と PAP 装着ガイドライン検討を強調され、会員の賛同を得た。

(会員 藤尾隆史)

### III. 舌・口底癌患者に対する摂食・嚥下リハビリテーションの最前線

高橋浩二先生

先生の講演では、症例を提示しながら、舌・口腔底癌患者に対する摂食・嚥下リハビリテーションについて紹介された。

昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科における摂食・嚥下診療の方針として、

- ① 日常的に患者の対応を担っている家族や介護・リハ担当者・医療関係者に患者の病態とその対応法を正しく理解して頂くため最大限の努力を払うこと
  - ② 訓練の動機付けの強化を図るため最大限の努力を払うこと
  - ③ リハビリテーションの効率化に最大限の努力を払うこと
- を挙げられた。

②の動機付けの強化では、検査時に機能障害の状況（例えば VF や VE の誤嚥所見）のみを診るのでなく、姿勢、栄養状態、意識レベル、意欲、表情、呼吸音、嚥下音など周辺状態を全て含めて総合的に評価することが重要であるとし、記録時状況のビデオ記録、嚥下時産出音（嚥下音、呼吸音）の同時記録を行っていることが述べられた。それにより、VE、VF 画像上に記録された機能をより正確に再現することが可能となり、また嚥下時産出音の情報は摂食・嚥下リハビリテーションで行われる頸部聴診のリファレンス情報として活用し、検査後のリハビリテーションの効率化が図れることにより、②患者、介護者の動機付けの強化に利用できるのである。

③のリハビリテーションの効率化では、検査時状況、リハビリテーション状況を嚥下時、嚥下時産出音とともに記録し、機能の定量評価として、バイオフィードバックにも利用していることが述べられた。

また、「no pain, no gain」の精神とともに、リハビリは漫然と行っていても効果がないとし、一例として昭大式嚥下法を含む入院下での摂食・嚥下リハのスケジュールも提示された。

この講演では、患者、その家族などに対する、高橋先生の身体を張った工夫や新しい技術についても述べられ、様々な角度から摂食・嚥下リハビリテーションについて、改めて学ぶことができる大変充実した内容であった。

(会員 西藤ゆみ)

### IV. 舌・口底癌患者の構音障害とそのリハビリテーション

熊倉勇美先生

先生の講演では、舌亜全摘の 2 症例に対して構音訓練のみならず補綴治療を行った経験を中心に述べ、補綴治療と一体になった「口腔・中咽頭がんの構音障害のリハビリテーション」の意義・必要性が解説された。

構音障害のリハビリテーションにおける言語聴覚士 ST の役割は、①摂食・嚥下機能の評価と訓練、②構音機能の評価と訓練、③心理的サポート、④外科医に対する機能的側面を中心とした情報の提供、⑤歯科補綴医との連携、⑥他の専門職との連携とした。

また、主観的な評価、客観的な評価を提示し、分析表より評価のポイントをいくつか挙げ、構音訓練の原則、具体的な方法も述べられた。

構音改善のしくみとしては、①コミュニケーションの悪習慣の軽減、②分かってもらえるという経験が自信につながり、③構音器官の可動性とパワーが改善され、④新しいコミュニケーション方法の学習がなされ、⑤補綴治療において効果を発揮する、とされた。

最後に、①STと補綴専門医の連携は絶対に必要であること、②STは構音訓練を進める上で細かい評価・分析（発語明瞭度分析表の利用）を必要とし、それをもとに訓練を進めること、③構音機能には口腔容積と形態、舌のボリュームと可動性などが重要なこと、④PAPによる構音機能の回復には「話しやすさ」も加えるべきであるとまとめられ、締めくくられた。

本講演では、ST、補綴専門医、外科医、そのほかの専門職など多職種間での連携の重要性を再認識させられた。この連携により構音障害におけるリハビリテーションの可能性をより感じることのできる教育講演であった。

（会員 西藤ゆみ）

## 関連学会報告

### 第12回日本口腔顎顔面技工研究会 学術大会

第12回日本顎顔面技工研究会学術大会が、北海道大学病院 生体技工部 大澤孝先生を大会長として平成22年7月17日に北海道大学学術交流会館で開催された。

今回は、「心・技・体のバランスの取れた技能の開拓」という大会テーマで、宿題講演1演題、一般口演10演題、シンポジウム1として6演題と基調講演1演題、シンポジウム2として4演題、特別講演1演題、特別企画のポスター8演題、計31演題で、参加者は262名で盛会であった。

宿題講演は、「当科における顎補綴技工の変遷」というテーマで、佐賀大学医学部歯科口腔外科の山口能正（筆者）が、佐賀大学での30年間の顎補綴技工の変遷について語った。

一般口演では、インプラント、3Dモデル、金属アレルギー、抗菌、区域切除、教育、再建、開口器、リハビリテーションなど多岐に亘って技工士が携った症例や研究について発表された。

シンポジウム1では、「歯科技工士とCAD/

CAMの明るい展望を拓く」というテーマで6メーカーの方々が、CAD/CAM技工について語られ、基調講演では、いっせい歯科クリニック院長の加藤一誠先生が、CAD/CAMを取り入れることで、現状の歯科技工作業の改善の可能性について発表された。

シンポジウム2では、「口腔顎顔面技工教育の現状と展望」というテーマで4施設の技工学校の先生方が、自校での口腔顎顔面技工教育の現状について発表された。

技工学校で口腔顎顔面技工教育を取り入れている学校は少なく、試行錯誤で行っているのが現状であった。

特別講演では、「心・技・体のバランスに活かすアロマテラピーの可能性」というテーマで、横浜薬科大学客員教授の山下真理先生が、患者のリラクゼーションにアロマテラピーを活用して、精神的ストレス軽減などは語られ、会場でもアロマテラピーを実践して、香りによる参加者の記憶や心理について話され、会場内をリラクゼーションの場とされた。



今回、北海道という地での開催であったため、大会テーマにも北海道開拓史にちなんで「開拓」の文字が組み込まれたのかもしれない。この大会も12年目になるが、過去最大の演題数であり、多種多様の演題であったため、参加者も各自の「技能の開拓」のきっかけになったのではないだろうか。技工学校での口腔顎顔面技工教育では、行なっている学校は少ないが、今後、取り入れる学校が増えている。日本口腔顎顔面技工研究会としても技工学校教育に協力する必要性を感じた。

次回は九州の佐賀で、佐賀大学医学部歯科口腔外科山口能正（筆者）が大会長を担当し、平成23年10月29日に佐賀大学医学部大講堂で開催させていただきますので、学会員の皆さまのご参加をお待ち申し上げております。

（広報委員 山口能正）

### 顎顔面補綴の本棚



#### 針千本 私のがん闘病記

江夏美好

（河出書房新社、1982年初版）

NL5号で紹介した『若きいのちの日記』（大島みち子）に続いて、口腔顎顔面領域のがん患者の闘病に関する書籍を2冊紹介する。最初に紹介する本書の著者・江夏美好（えなつみよし）は岐阜県出身の作家で、代表作には地元飛騨の女性の一生を描いた『下々の女』（田村俊子賞）がある。

著者は作家活動を旺盛に行っていた57歳の時に口腔底癌と診断され、愛知県がんセンターに入院して放射線治療を受ける。コバルト60外部照射に続いてラジウム針の組織内照射を受け、その時の痛みの実感を綴った「それにしても、この火を噴く舌の痛みを、どう表現したらよいであろうか。針千本！」が表題となっている。著者は、病院という世界と医師、看護師、患者、家族などの人々を作家としての眼で観察し、また自身の病態を時にはユーモアを漂わせながら描いている。しかし、

痛苦の描写はやはり深刻である。痛みは本人しかわからないというが、痛みの比喩だけではなく、痛みに苛まれる時間、風景、その時に心中に去来する過去や未来に対する想いなどの描写が繋がることによって読者に痛みを伝えてくる。発音や嚥下の困難に関する表現もそこそこに見られる。

著者は前後1年余りの治療を経て退院、その約半年後から新聞紙上で自身の闘病記を63回にわたって連載した。「新聞連載の当初、がんセンターの一部医師から新聞社へ厳重抗議の電話があった由。また、放射線治療の認識不足を嘆く声も耳にした。けれど嘘いつわりない私の体験記である。」と著者は本書の「あとがき」に記している。最後に「人間の生と死は、つねに背中あわせである。いのちあるかぎりは、精一杯生きてゆきたいと思う。がんをおそれはせず、がんを征服してみせようと、必死な決意でいる。」と記した著者は、その三ヶ月後に本書の出版を目前にして自殺している。



#### 鳳啓助のポテチン闘病記

鳳ハマ子

（毎日新聞社、1994年初版）

本書は「ポテチン！」などのフレーズと京 唄子との漫才コンビで一世を風靡した関西のコメディアン鳳啓助が晩年苦しんだ上顎癌の闘病記録を、彼の4番目の（最後の）妻であったハマ子夫人が夫の死後まとめたもの。

3年前から鼻の異常を自覚していた鳳啓助は多量の鼻血で耳鼻科を受診し、鼻茸という診断で手術を受けたところ悪性腫瘍が見つかる。医師は最初は告知せずに手術を勧めたが、本人は「顔は芸人の看板や」という思いと医療不信から手術も化学療法も拒否して、民間療法に頼り半年後に71歳で死を迎える。医療者の側から見ればまことに不可解な顛末であるが、夫の機嫌をとり、「生命水」を飲ませ、臨終の床まで枕もとで「プラズマ」を発するという棒振り続けた夫人の献身には圧倒される。何とか治療を納得させようとする

医師が悪魔の手先のように描かれているところを読むと、患者やその家族と医師との関係もそこまで行ってしまうということをさまざまと教えられる。最後に心から信頼する医師に看取ってもらうところはほっとするが、この「送りびと」としての仕事が本書の中で唯一感謝される医師の仕事というところが皮肉である。

文字通り「病との闘い」の様を記すという「闘病記」自体の困難さに加えて、口腔顎顔面の悪性腫瘍は全癌の中でも比率が低いことから、このような記録が残されることはまれである。その意味からも、両書は故人たちの生前の立場を超えた貴重な記録であろう。

(広報委員 小野高裕)

### 関連学会の案内（平成23年）

#### ●第28回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会

大会長：長岡英一

日 時：1月22日（土）～23日（日）

会 場：かごしま県民交流センター

問合せ：鹿大・大学院・医歯 口腔顎顔面補綴学分野

TEL：099-275-6222

FAX：099-275-6228

#### ●第29回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

大会長：篠原正徳

日 時：1月27日（木）～28日（金）

会 場：崇城大学市民ホール（熊本市）

問合せ：熊大・大学院・生命科学 頸口腔病態学分野

TEL：096-373-5288

FAX：096-373-5286

#### ●第34回日本嚥下医学会総会・学術講演会

大会長：加藤孝邦

日 時：2月4日（金）～5日（土）

会 場：芝パークホテル（東京都）

問合せ：慈恵大 耳鼻咽喉科教室

TEL：03-5400-1200

FAX：03-3578-9208

#### ●第14回補綴歯科学会東関東支部総会・学術大会

大会長：河相安彦

日 時：2月6日（日）

会 場：茨城県総合福祉会館（水戸市）

問合せ：日大・松戸歯 頸口腔義歯リハビリテーション学

TEL：047-368-6111（375）

FAX：047-360-9376

#### ●第39回日本臨床矯正歯科医会

大会長：中野耕輔

日 時：2月9日（水）～10日（木）

会 場：札幌コンベンションセンター（札幌市）

問合せ：口腔保健協会 CV部

TEL：03-3947-8761

FAX：03-3947-8873

#### ●第30回日本インプラント学会関東・甲信越支部学術大会

大会長：井汲憲治

日 時：2月12日（土）～13日（日）

会 場：パシフィコ横浜（横浜市）

問合せ：日本インプラント臨床研究会

TEL：027-370-6200

FAX：027-360-3269

#### ●第65回日本口腔科学会学術集会

大会長：天笠光雄

日 時：4月21日（木）～22日（金）

会 場：タワーホール船堀（東京都江戸川区）

問合せ：医歯大・大学院・顎顔面外科学

TEL：03-5803-5500

#### ●第35回日本口蓋裂学会学術集会

大会長：齋藤 功（新潟大学）

日 時：5月25日（水）～26日（木）

会 場：朱鷺メッセ（新潟市）

問合せ：新大・大学院・医歯・歯科矯正学

TEL：025-223-6161

#### ●第52回日本歯科放射線学会学術大会

大会長：谷本啓二（広大）

日 時：5月26日（木）～29日（日）

会 場：広島国際会議場

問合せ：広大・大学院・医歯薬 歯科放射線学

TEL：082-257-5555

# Newsletter No. 12

## Maxillofacial Prosthetics

●第21回日本顎変形症学会

大会長：森山啓司

日 時：6月16日（木）～17日（金）

会 場：学術総合センター

問合せ：医歯大・大学院・医歯 顎顔面矯正学

TEL：03-5803-5533

●日本顎口腔機能学会第46回学術大会

大会長：佐々木啓一

日 時：4月23日（土）～24日（日）

会 場：東北大学さくらホール（片平キャンパス）

主 管：東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野

●日本補綴歯科学会第120回記念学術大会

大会長：赤川安正

日 時：2011年5月20日（金）～22日（日）

会 場：広島国際会議場

主 管：広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
展開医学専攻顎口腔顎部医科学講座

●日本老年歯科医学会第22回学術大会

（第27回日本老年学会総会との併催）

大会長：下山和弘

日 時：6月15日（木）～17日（金）

会 場：京王プラザホテル（メイン会場）

東京都新宿区西新宿2-2-1

スペースセブン（ポスター会場）

東京都新宿区西新宿2-7-1

主 管：東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科

高齢者口腔保健衛生学講座

●第23回日本嚥下障害臨床研究会

会 長：武内和弘

日 時：7月9日（土）～10日（日）

会 場：しまなみ交流館（広島県尾道市）

主 管：県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科

・広報委員会からのお知らせ

学会ホームページに以下のコンテンツを追加いたしましたので、ご覧ください。

1) 市民向けのページ

2) 顎顔面補綴治療ガイドライン（2009年度版）

なお、日本言語聴覚士協会のホームページへのリンクを設置いたしましたので、これもご利用下さい。

ニュースレター12号の発行を持ちまして、今期の広報委員会の仕事を終了いたします。2年間のご愛読ありがとうございました。

（広報委員長・小野高裕）

コンテンツ

第28回学術大会長 挨拶	1
第27回学術大会報告	2
関連学会報告	5
顎顔面補綴の本棚	6
関連学会の案内（平成23年）	7

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 小野高裕

委 員 隅田由香、熊倉勇美、小山重人、  
古賀千尋、山口能正

幹 事 城下尚子

TEL:06-6879-2954, FAX:06-6879-2957

E-mail:ono@dent.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座